

共通基礎科目「学校組織のリーダーシップ」

教育実践高度化専攻 露口健司

授業の到達目標

授業の到達目標は、「校区レベルで人々を動かすために、自校（実習校）の問題を洗い出し、目標・戦略・評価の観点から、変革のための具体的方法を提案することができる」である。

授業計画

本授業は、2回1セットの構成となっている。1回目の講義において知識を習得するとともに実践調査課題を設定する。その後、1週間かけて勤務校（実習校）において、組織調査を行い、その結果を2回目の講義で発表し、協議を行う。本年度の受講生は、下記に示す7テーマに取り組んだ。

- ①危機意識の共有化をいかにして図るか
- ②ビジョンと組織文化の変革
- ③目標管理に適した公正型リーダーシップ
- ④チームワークを高めるリーダーシップ
- ⑤校区につながりを築くリーダー
- ⑥保護者との信頼を築くリーダーシップ
- ⑦学力向上を目指す教育的リーダーシップ

授業方法

1班3-4名の5グループを単位として、毎回の学習課題に取り組んだ。各グループのリーダーはリーダーシップ開発コースの現職教員であり、彼らがストレートマスターによる実習校での調査を支援している。1グループの発表時間を15分として、10分の発表、2分のグループ内協議、3分の全体協議とした。



最後に、全体協議の時間も設けた。

講義には、ほぼ毎回、松山市教育研修センターの指導主事が参加し、院生の指導助言にあたった。

授業評価

受講者は16名であり、DP対応の授業評価の結果は図の通りである。いずれの項目も、約90%の達成率となっている。ただし、具体的な技能の習得を意図していないため、この点の評価は十分ではない。



地域社会を核とした教育と研究のつながり

本講義では、課題⑤において、校区における学校・家庭・地域の連携・協働をテーマとして、学校を核とした地域づくりや地域活性化について検討する学習機会を設けている。また、院生は、課題発表において、自らがフィールドワークによって調べた地域課題や解決方法等をまとめており、「地域とともにある学校」時代の教員に必要な資質・能力を高めている。

次年度以降の課題

本講義が、現職教員主体の学習として編成されているため、ストレートマスターの活躍の場がやや制約される。ただし、本年度は、現職教員による手厚い指導助言が為されていたため、ストレートマスターも質の高い発表ができた。また、本年度は研究者教員1名が授業を実施したが、次年度は、校長職経験者等の実務家教員を含めたチーム・ティーチング体制で授業に臨みたい。

